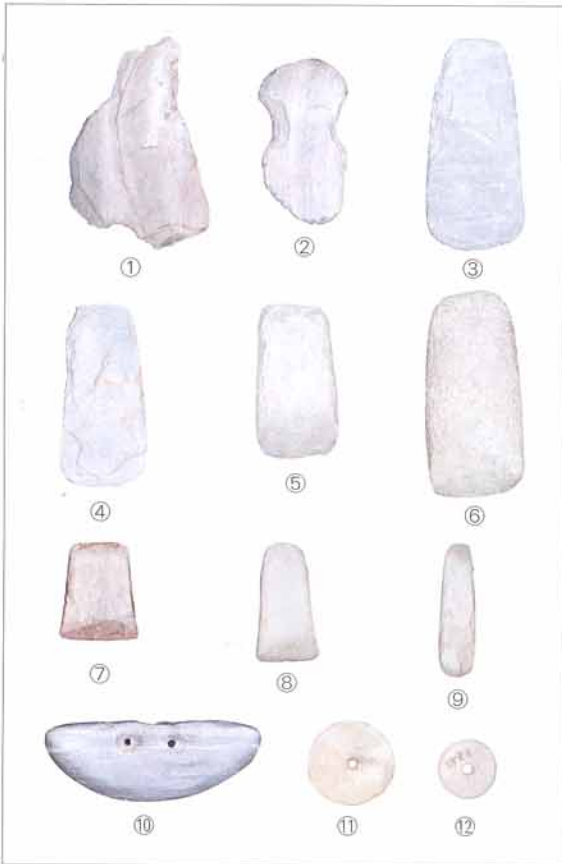




米づくりのムラ

人々はムラをつくり、主に竪穴式住居でくらしていた。稲作により食糧を蓄えることができるようになり、高床式の倉庫もつくられた。土器は主に食糧の煮炊きに使われていたが、壺や甕のように貯蔵を目的とするものが作られるようになった。

弥生土器



甕 原町市脇遺跡



壺 大玉村柿崎遺跡  
大玉村教育委員会蔵

◀ 桜井遺跡の出土品

- ① ② 打製石器
- ③ ④ 打製石斧
- ⑤ ⑥ 磨製石斧
- ⑦ ⑧ 偏平片刃石斧
- ⑨ 石盤
- ⑩ 石庖丁
- ⑪ ⑫ 紡錘車

- ①～⑧⑪ 福島県立博物館蔵
- ⑨ 原町市前屋敷遺跡
- ⑩ 原町市桜井遺跡
- ⑫ 原町市八竜 高野徳氏蔵



土器底部の杵圧痕・布圧痕

原町市桜井遺跡（杵圧痕のある土器・福島県立博物館蔵）

桜井遺跡は新田川南岸の河岸段丘に位置し、この地方の代表的な遺跡として知られ、弥生時代中期後葉の標識土器『桜井式土器』が出土している。ここからは米の収穫に使用された石庖丁や打製石鋤、太型蛤刃石斧などの多くの石器や土器が出土している。また、土器の底部に杵のあとや布のあとのついたもの（杵痕土器、布痕土器）があることから稲作や紡織がこの地方にも普及していたことがうかがえる。